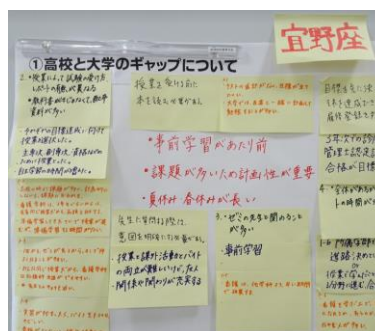


2022 年度 第 8 回 名桜大学高大接続勉強会報告書①

去る 11 月 28 日、第 8 回 名桜大学高大接続勉強会を、「大学生と考える高校と大学のギャップ」をテーマに、名桜大学学生会館 SAKURAUM 6 階スカイホール A で開催いたしました。今回は、高校別グループでの情報交換を行い、大学生生活全般における率直な意見交換の成果を、高校での進路指導に活かすとともに、本学学生への新たな気づきを促し、さらなる実りある学びに繋がられるよう高大接続の実質化に向けた試みとして実施されました。

今回は、北部 7 校出身の学生 26 名、高等学校教員 12 名、大学教職員 15 名の合計 53 名が参加しました。学生達は、この企画に強い関心を寄せて参加を承諾しただけではなく、母校の先生方に会えることを楽しみにしていることや同じ学生同士の先輩や後輩との情報交換を通して、共に学び成長したい、とても楽しみにしている様子でした。

卒業生の石川若葉さん（現、言語学習センター職員）が司会進行を務め、佐久本功達リベラルアーツ機構長の挨拶に始まり、次に今年度の高大接続事業の報告等がありました。メインプログラムの情報交換会では、最初に各グループで、①高校と大学のギャップについて、②大学生生活で苦しかったこと、③大学生生活で嬉しかったこと、④大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも併せて）について、高校の先生方も学生も熱気あふれる会話が繰り広げられました。引き続き、各グループで話し合われたことを隣のグループ同士で共有するという発表の時間が設けられ、それぞれの報告があり、さらに情報は深まりました。



ブレインストーミングの共有



隣のグループと情報をシェア



卒業生代表体験発表

次に、代表者として国際学群 2 年次の上妻琉花さん、国際学群 4 年次の上間瑞樹さん、卒業生代表の石川若葉さんに、それぞれの体験談を報告してもらいました。大学生生活での主体的な努力の姿勢が表れた 3 名の発表は、示唆に富む貴重な体験発表であり、参加している学生にも大いに刺激を与えてくれました。

学生達から、入学時の苦労話や自分なりに努力したこと、学生生活で頑張っている様子などを聞くことができ、実り多い学生生活を送っていることを知ることができ、本学の教育の成果が感じられる誇らしい発表会となりました。また、高校の先生方からは教え子たちの成長した姿に感動したことや、大学での指導に興味・関心が寄せられたこと、さらに今日の情報交換の成果を高校生に直接伝えたいという感想が聞かれました。この意見は、是非次年度につなげていきたいと考えています。今回は新たな企画で、学生達の素晴らしい体験発表で有意義な会となりました。

最後に、山城智史リベラルアーツ副機構長から閉会の挨拶があり、高大接続勉強会には、学生の姿も必要ですと、述べられ賛同する拍手があり、本会の主役を担った学生への大きな拍手に包まれ盛会のうちに幕を閉じました。



高大接続勉強会の各学校別グループでの情報交換会の様子

1. 学生の活動報告及び情報交換の中で、特に印象深かったこと 大学での学びで、受動的に学ぶのではなく、自分の考えをまとめることがなかなか難しく、高校生活の課題であったことを聞き、とくにアウトプットを意識して、今まで以上に組み込んで行かねばと思いました。 大学生になって、とても成長を感じました。苦しいこともありながら、頑張っていることを学生から感じることができました。 発表内容もさることながら、卒業生が自分の考えを持って、成長している姿が見れたこと 「大学生活で苦しかったこと」について話を聞いている中で、本校生徒の課題が浮き彫りになりました。 語彙力、表現力、読解力、主体性…。 進学した生徒の状況が分かって良かった。また、勉学へのサポート態勢もしっかりされていると知り安心しました。 大学生の学びに向かう姿勢がとても素晴らしい。逞しく成長した姿を見て感動しました。
2. 今回の高大接続勉強会のテーマ「大学生と考える高校と大学のギャップ」について 高校と大学は、主体性に大きな違いがあることに改めて気づきました。 やはり、このギャップは経験しないと感ぜないものであるが、こうした大学生の生の声に触れる機会を高校生も早い段階で経験したら、大きな変化が期待できないだろうか、と考えた。 大学の授業が能動的なものというのが印象的でした。高校も生徒の活動を促すような能動的なものに変容させていかなければいけないと思いました。 現役大学生が、何について現在学んでいるのかなど「大学での学び」に関する説明や紹介があったほうが、意見交換がスムーズに行くかと思いました。 大きな違いは、主体的、計画的に取り組まなければ大学の授業にはついて行くことができない。更に授業そのものが成り立たない点。
3. 今回の勉強会の持ち方について 学生がいることで、リアルな現状を知ることができるのでとても良い。皆様お忙しく、時間が限られてくるので厳しいかと思いますが、教員のための接続会も必要だと感じた。 とても良かった。現役高校生も各校 2～3 名参加できると、高校生にとっては貴重な経験になると考える。 大変良かったです。学生もいて、はじめて高大連携が検討できると感じました。 出身高校ごとのグループ分けをしてくれたので、共通の話題もあり話しやすくて良かったです。 初めて参加しました。良い交流になりました。久しぶりに卒業生にも会って、話を聞くことができて良かったです。 とても良い企画だと思いますが、高校生と大学生との学習会の方が更に効果的だと思います。
第 8 回高大接続勉強会のアンケート結果（学生）一部抜粋
1. 学生の活動報告及び情報交換について 事前学習が当たり前、課題が多いため計画性が重要であるなどの意見が出た。 入学前特別講座は経験上とても良いものだと感じた。 先輩方の話を聞いて、就活に向けてのガクチカやインターンなどを行っていることあり、まだまだ自分は未熟だと思った。残りの 2 年間でどういう目標を持って行動していくかを考えるいい機会になった。 高校の先生方と報告しあうことで、高校と大学の違いについて改めて考えることができたと思います。また、高校生のときに自分自身がどのようなことを考えていたのか、何をしたかったのかといった初心に帰ることができたと感じました。色々な学生が大学生活の中で行動を起こしていて自分も感化された。 高校の先生方に卒業生として成長した部分を見せることが出来た。 情報交換をする中で、今の高校生に何が足りないのか、何が必要かなど、具体的に討論することが出来た。 このような、勉強会があると私個人的には、高校生のため、先生のため、学生のため全てに意味があると感じるのでとてもいい機会だと思います。また、誘って欲しいし、高校生にも伝えたい！です。 高校と大学はまったく違うものなので、情報を提供出来て良かったなと思いました。また、高校の先生方の不安や心配事が多くあり質問がありました。その応答として、しっかり答えられたのではないかと思います。

高校を卒業してから、あまり関わる事が無かったため、関わる事ができてとてもよかった。今回話したことが母校の生徒達にいい影響を与えると良いなと感じた。
自分達の高校と他の高校との違いが分かったといのとどんな考えをしているのか分かった。
学生が話し合いを通して自身が必要な事柄を話し、また理解していると感じた。また、話し合いや勉強会を通して課題点などが見つかっていると感じた。
高校と大学の学校生活を振り返る良い機会になった。他の高校との情報交換をすることで、自分達のグループでは無かった情報や、新たな気づき、発見が得られた。
大学と高校での違いや学びがどうなっていたかグループや先生方の意見を交換して、様々な視点からの意見が出てきて、たくさんの気づきがあった。
同じ学校を卒業した仲間でも、大学生活で感じたことがそれぞれ違っていてとても有意義でした。それでも、ギャップや苦しかったこと、嬉しかったことなど似通った部分もあり、今日のような勉強会の大切さを学びました。
3. 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージ等）
語彙力、積極製、計画性を身につけておくべきだという意見が出た。
大学に入るからにはしっかりと目標を明確にすることが必要。 常に目標を持って行動することが大学生活では必要。
具体的な目標を持って行動することがなにより大切だと思った。大学に入ってから、これをやっておけば良かったと思わないようにやりたいと思ったこと興味のあることには積極的に行動しておくべきだと思う。
大学で何が学びたいのか、やりたいのかといった目標を明確にしておくこと。 大学がゴールではなく、学び続ける姿勢を持ち続けること。
なにか物事を起こす機会を見つけ、意欲的に行動することが大学生活をより良いものにする秘訣だと思うため、意欲と行動力が大事。
受け身だけでなく、物事に疑問を持つ癖をつけることで、自分の強みを深めていくことが出来るので、主体性を持って自分の意見を持てるように頑張ってください。
勉強する習慣や最後まで物事をやり抜く、検定を取るなどが挙げられていた。
必要なことからは、多いが話し合いの中では、自身で機会を見つけ、それを逃さずに意欲的に行動することが大事、との意見が出た。個人的な意見としては物事を論理的に理解し、それを説明できるようになることが必要だと考えている。
「夢を持つこと！」やりたいこと、興味あること、積極的に取り組んで欲しい。
時間管理が大切。提出期限を守ることや朝早い講義もあるので、自分で考えて管理していかないといけないから機会を逃さないことが大切。質問はたくさんして、自分のためになる行動を起こせば大学での成長に繋がると思う
主体的に動く力や学び続ける力が必要だと考える。高校の時に進学先が決定しても大学でしたいことなど目標を立てることや検定に向けての勉強や英語の勉強をすることで後々大学生活でより多くの知識を身につけることができると思う。そのため空いてる時間に少しでも勉強したほうが良いと思う。
4. その他、高校や大学への要望等
高校教員と名桜学生ではなく、高校生と名桜学生のこのような交流を行った方が有意義だと考えます。理由としては、高校の自身を振り返ると、教員の言うことより、年齢の近い大学生から話を直接伺うことができるからです。また、人間、直前にならないと焦らないと思います。オープンキャンパスでは大学の様子を紹介するいい機会だと思います。今回のようにディスカッションを行えるブースを設けた方が良いかと思います。
高校生と大学生が交流するのも良さそうです。大学生が多いと圧に押されると思うので、高校生数人に大学生 1 人の割合で取り組むのもいいかもしれません。私自身も高校生のこれからのために取り組んでみたいとなりました。
ポートフォリオなどを活用してスケジュール管理ができるようにサポートして欲しいです。
名護商工への要望というか提案ですが、大学は課題が多いです。商工は課題が少ないと感じている為、習慣づけるためにも課題を課すべきかと感じます。量的には少量でもいいので、課題を課すいいと思います。
また、大学は板書、などほとんどしません。高校は板書することも多いと思いますが、ある意味時間の無駄だと考えます。理解するための講義ですので資料を配布し、生徒が授業を理解できるようにすると知識向上だけでなく思考力向上にもつながると考えます。
今日の勉強会は、先生方と学生で話すことで多くの気づきや学びがあったので、交流が大切だと思いました。
大学生、高校生が関わる機会が増えると高校生も大学のイメージが付きやすいと思いました。

2022 年度 第 8 回 名桜大学高大接続勉強会報告書②（高校別報告）

【北部農林高等学校】

報告 リベラルアーツ機構 笠村淳子

参加者：北部農林高校教員 3 名・本学生 3 名・L 機構教員 1 名（計 5 名）

本学生からは、各学科および学群から各 1 名の学生が代表で入っていた。それぞれの目標やカリキュラムの違いもありながらも、大学生として感じていることはほぼ一致していた。

久しぶりの母校の先生との会話がはずみ、「主体性」「計画」「その他」「先生方の心配事」の 4 つのカテゴリに意見をまとめ、発表した。

以下に、話し合った 4 つの項目をまとめる。



① 高校と大学のギャップについて

主体性：大学では履修登録を始め、高校と違い自分で決定して物事を主体的に行うことが期待される。

計画：計画の立て方は高校と同じだが、（大学で成功するために）効率的な計画を立てて課題をこなす、毎月定期的に計画を見直すことが必要である。

その他：高校との大きな違いは、定期的に教員との面談がある（スポ健）ことやレポートおよび論文提出の際は引用文献が必要である、との意見があがった。

母校の先生方の心配事：授業時間の延長（50 分→90 分）や授業スタイルの違い、勉強する内容の多さや主体性が求められる大学で、しっかり主体的に学んでいるかなどの質問があがった。

② 大学生活で苦しかったこと

ここでは、高校との違いによる苦労が挙げられている。「課題が多い」「レポートの参考文献探しが大変だった」「ゼミでの活動時間調整」「教養演習での連携」など、自主的に動かなければ目的を達成できない事に苦労したことが見える。

③ 大学生活でうれしかったこと

実習の多いスポ健の学生は「実習を通して学べた」こと、看護科の学生は「実技のテストで合格した」こと、すなわち苦労しても目標を達成できたことに喜びを感じていることがわかる。国際学群の学生は高校と違い、「自分のやりたい授業を取れること」とし、大学教育（高等教育）を受ける者として専門性を高める科目が取れることに喜びを感じていることがあげられた。

④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージ）

後輩たちに伝えたい事を「意識」「勉強」「検定」の 3 つのカテゴリに分けて発表していた。

意識：「自主性が必要」「計画的に行動すること」「自分の意見を持てるようにしていた方が良い」「嫌なことでも最後までやりぬくこと」と、現役大学生（先輩）として頼もしいアドバイスが挙げられている。

勉強：「勉強グセをつける（予習）」ことや「生物・化学は高校の授業でやらないところもやるべき（看護）」など、高校のうちから準備できることについてアドバイスがあげられた。

検定：高校では検定受験料の免除もあるので、取れる検定（ここでは特に漢検）を取得しておいた方がよい。検定は取れなくても、英語は勉強しておいた方がよい、という意見があった。

まとめ：母校の先生方は心配ごとについての質問が多かったが、学生たちの適切な回答と成長している姿をととても喜んでいただいていた様子であった。今回のプログラムは、高大接続の大きな一歩となったと感じる。

国際学群 4 年次と看護学科 1 年次の 2 名の学生と母校の教員 2 名の話し合いの場に参加させてもらった。2 名の教員が学生達の高校時代をよく知っているということもあり、教員からの積極的な質問も交えながら、会話が弾んでいた。学生たちは、「主体的に学ぶ姿勢や目標を持って計画的に行動することの大切さ」等を伝えらるとともに、大学での体験で得た内容の濃い貴重な学びを、教員を通して母校の後輩にも伝えたいという厚い思いが感じられた。それが自信となって表れており、教え子たちの驚くほどに成長した姿に感動し、満足した高校の先生方の様子が印象的であった。



以下に、その内容を紹介する。

1. 高校と大学のギャップについて

高校と大学の違いとして、「主体性・講義時間が長い・自分の教室がない・空きコマがある・履修登録等」が出された。その中でも二人の学生が特に強調したことは、「主体性」でした。「高校では与えられた教科に受け身で学ぶスタイルが主であるが、大学では関心のある授業を主体的に受ける。授業に向かう姿勢が重要で、講義等の理解度の向上のためには、授業内・外で主体的に学習する姿勢が必要である。そのため、空きコマを活用した計画的な学習活動でレポート作成などをやり遂げることである。大学では自分でスケジュールの工夫や管理ができるかどうかという主体的な態度の有無でその成果に大きな差がつく。その際、与えられたことをただやって終わるのではなく、自分で考え、自ら工夫し、与えられた以上のことを実行できることが大事である。高校の授業では板書による学習が多いが、大学の授業では、学生同士のディスカッションにより様々な考え方を学ぶことができ、さらに先生の説明を聞いて新たに思考の範囲を広げることができるので学びがより深まる。

2. 大学で苦しかったこと

コロナの影響で留学に行けなくてモチベーションが下がったことが苦しかった。しかし、そこから自分の目標を諦めず、独学でいろいろな工夫とチャレンジをして英語の勉強に打ち込むことができ、自信に繋がった。(学群 4 年次)
高校と大学とはレベルが違うので、最初は勉強が苦しかった。対面とオンラインの授業があり、授業では、Google クラウドルームや Teams 等、いろいろ多様すぎてついていけなかった。大学の講義は、高校の内容よりも深く難しい。実習活動のレポート課題が多いので、バイトと課題の両立がきつかった。(看護学科の 1 年次)

3. 大学生生活で楽しかったこと

楽しかったことは、給付奨学金があること。学内外問わずコミュニティが広がったこと。県外や那覇など、いろんな人と交流できること、ゼミ、サークル、バイト等、学部以外の人とも関わることでコミュニティが広がった。

4. 大学で学び成長するために必要なこと、母校の後輩たちへのメッセージ

- ・やらないよりやって失敗しても、粘り強くチャレンジすることが大事
- ・書くことは大学での学びの基礎となる。苦手なところを高校でやっておいた方がいい。
- ・チャンスを逃さないこと、身近にあるチャンスを掴むこと。

参加者としての感想

「同年代の先輩からのメッセージが高校生には深く響くと思う。是非この思いを高校生に届けたい。勉強も一生懸命している大学生はキラキラ輝いている。」という言葉が印象的であった。学生たちの大学での学びの達成感と自信だと受け止めた。高校教員からは、成長した学生の意欲的な態度から、主体的な学びに導いた大学の「教養演習」に関心を示してくれた。高校での「総合的な探究の学習」の参考にしたいということを聞くことができ、今回の高大接続勉強会の大きな収穫であると捉えている。

下の写真にあるように、ポストイットを活用した意見収集の手法を用い、下表にまとめたように多くの意見が寄せられた。表のコメントからもわかるように、「受動的な学び」である高校までの教育に対し、「主体的に学ぶ」大学の教育に慣れずに苦労したといったコメントが多く寄せられたのが印象に残った。これらは、今後の高大接続のヒントになると感じた。また、参加いただいた高校の先生方からは

- ・大学と高校の講義形式なども異なるので、コメントやファシリテーションが難しい
- ・入試前の3年生、担任などが一緒に参加できるとモチベーション向上につながる

などの貴重な意見をいただいた。高校の先生方に円滑なファシリテーションを心がけていただいたおかげで、意見交換が滞りなく実施された。次年度も継続して行うことで、質の高い高大接続の可能性を感じる会となった。

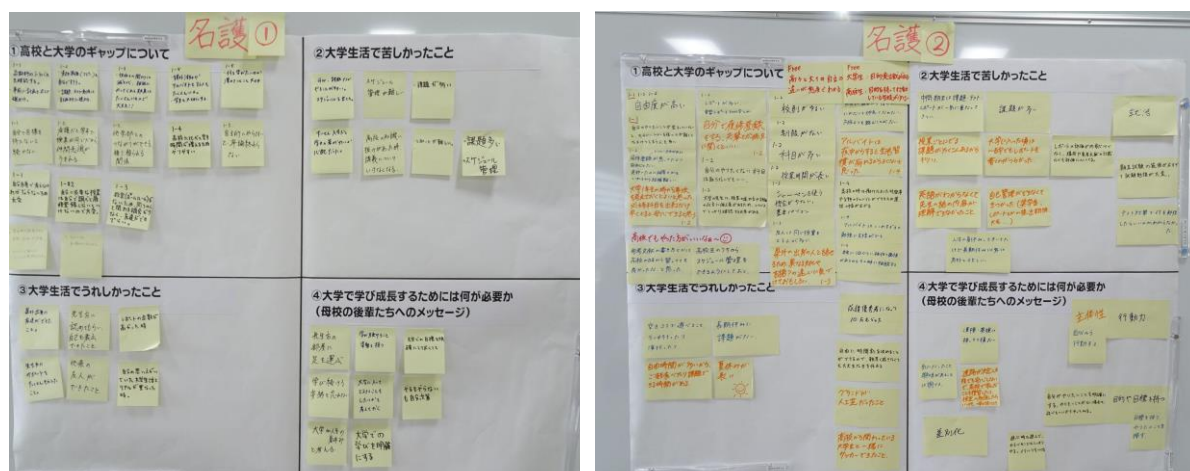


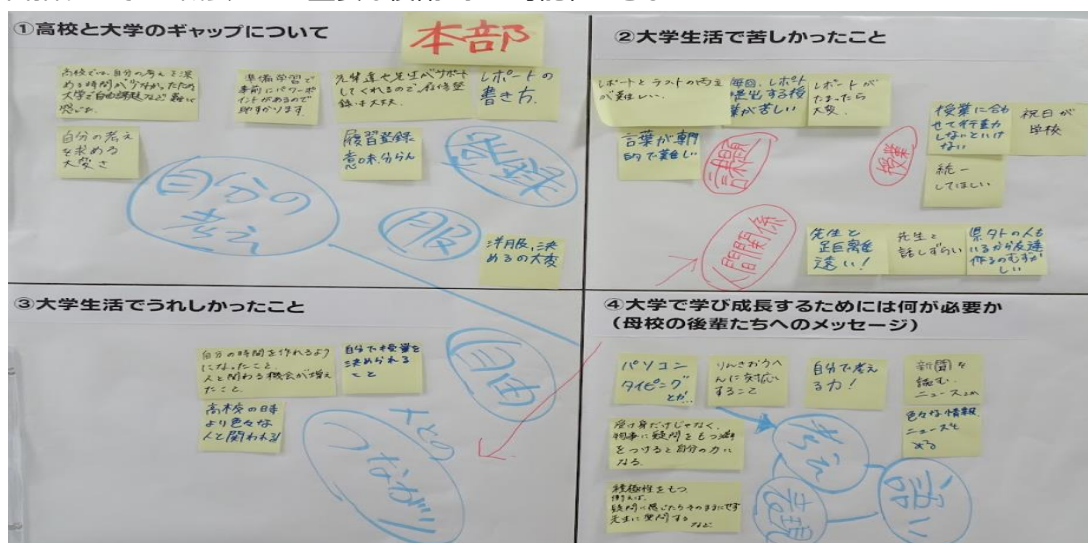
表: 高校と大学生活に関する意見収集の時間で寄せられた内容(抜粋)

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	思っていたよりも時間がなく、自主的に行動する必要がある。
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	課題が多く，基礎的な内容を理解していないと授業についていくことが難しいと感じる。参考文献等の記載方法は大学になって苦労したので，高校時から教えてもらえると助かる。
	先生や友人	距離が近いので，質問しやすい。
	課外活動やアルバイト	高校に比べ，自分で時間割編成ができるので，アルバイトや課外活動にも取り組みやすい。その一方，自己管理が難しい。
	進路の決め方	目的意識が必要で，半年に一回ある指導教員の先生と面談時に相談することがある。
② 大学生活で苦しかったこと		試験範囲が広すぎる上，課題も多いので時間の確保が大変である。
③ 大学生活でうれしかったこと		県外からの友人と知り合う機会に恵まれていること。
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）		主体性と行動力を大事にし，他の人と同じことをしないオリジナリティを大切にしたい。

① 高校と大学のギャップについて	
学習の目標や計画の立て方	・高校では教員側が提案していたが、大学では自分でスケジューリングしなければならない（課題、テスト等） ・自由度 ・高校ではクラス内でも学力に差があるため、能動的と受動的に動く差がある。
授業の受け方（履修登録、準備学習、学期末試験、レポート・論文）	・大学では準備学習が必須（科目による）
先生や友人	・高校では先生との距離が近い。色々
② 大学生生活で苦しかったこと	③ 大学生生活でうれしかったこと
・中間・期末試験 ・レポート作成 ・学力の差（勉強に対する習慣、基礎力が違う） ・統計学（看護） ・いろんな価値観の同級生がいて、その人たちに合わせる	・好きなことで集まれるコミュニティ（部活）がある。 ・夏休みが長くて、期間中は課題がなかった。休みを謳歌した。 ・県外の人、いろんな人、知らない世界と触れる ・先輩・後輩の縦の繋がりががある ・世界が広がる
④ 大学で学び成長するためには何が必要か （母校の後輩たちへのメッセージも）	・レポート作成の基礎 ・日頃からの勉強習慣 ・高校で身につけた経験も、大学でいかせるので、自信を持って欲しい。高校での時間を大切にしてほしい。 ・放課後講座をしっかりと受けておいたほうがいい。



今回の高大接続勉強会の特徴は、名桜大学生と出身高校の先生方との交流する場面があり率直な意見交換ができたことが挙げられる。学生がもつ入学前後の本学に対するイメージや実体験を通じた感覚や認識の相違や変容を高校の先生方と共有できる有意義な機会となった。以下に挙げる内容に見られるように、現役学生から本学における学修環境に関する生の声を共有することで、特に高校側における今後の本学への進学を希望する学生への支援の方針に対して多くの指針が得られたように見えた。また本勉強会に参加した学生にとってもこれまで親身になって支援してもらった恩師に会う機会を得て、一つの成果報告会の雰囲気もあり充実した時間になり得たようにも窺えた。今回の勉強会のように「学生」、「高校」、「大学」の双方向で情報共有する機会を定期的に持つことで、高大の接続はより密接になっていく可能性を感じた。名桜大学とやんばる地域との連携をより親密で強固なものにし、地域から支持される大学を目指す上でこの機会は一つ重要な役割を担う可能性を感じた。



表：高校と大学生活に関する意見収集の時間で寄せられた内容(抜粋)

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	課題とレポートの両立が難しい。
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	毎回の講義でレポート提出が求められる。履修登録のシステムが把握できず戸惑った。レポート課題で題材を自由選択する際に困難を感じる。講義で習得した知識を基に発表する機会がある。
	先生や友人	教員に話しかけづらい。本土出身学生との交流に積極的になれない。
	課外活動やアルバイト	高校に比べ、自分で時間割編成ができるので、アルバイトや課外活動にも取り組みやすい。その一方、自己管理が難しい。
	進路の決め方	目的意識が必要で、半年に一回ある指導教員の先生と面談時に相談することがある。
② 大学生生活で苦しかったこと		本土出身学生との関わりに積極的になれない。活用するツール (Universal passport, Teams, Goodle) は教員によって違う。
③ 大学生生活でうれしかったこと		自分で授業が組める。自分でスケジュール管理ができるようになった。色々な人と関わりをも照るようになった。
④ 大学で学び成長するためには何が必要か (母校の後輩たちへのメッセージ)		新聞を読む。語彙力をつける。表現力をつける。能動的に課題解決に取り組む姿勢。パソコンのタイピング能力。自分で考える。

2022 年 11 月 22 日(月)に第 8 回名桜大学高大接続勉強会が開催された。今回は「大学生と考える高校と大学のギャップ」を大テーマに、北部地区の県立高校 7 校出身の学生 26 名、高等学校教員 12 名、大学教職員 15 名の合計 53 名が参加し、高校別グループでの情報交換（ディスカッション）を行った。本報告書は、宜野座高等学校のグループについて報告する。

本グループは宜野座高等学校からの教員 1 人、学生 4 人（男子 1 人、女子 3 人）の計 5 人で情報交換を行った。本勉強会は、高等学校毎のグループに分かれたディスカッションではあったが、総合司会がタイムキーパー役を務め小テーマごとに時間を区切って進行的した。ディスカッションは各自が付箋紙に意見を記述し、付箋紙に貼り付けてポスターを作成し発表する形式で行われた。以下の表に、本グループで作成したポスターの内容をまとめる。

表 1. 宜野座高等学校で作成したポスター内容のまとめ

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	・目標を先に決めて、それを達成できるように履修登録をする
	授業の受け方（履修登録、準備学習、学期末試験、レポート・論文）	・事前学習があたり前 ・課題が多いため計画性が重要 ・教科書じゃなくて、配布資料が多い
	先生や友人	・先生に質問する際は、意図を明確にする必要がある。 ・大学では、友達と一緒に計画して勉強することが多い。
	課外活動やアルバイト	・夏休み・春休みが長い ・授業と課題活動とバイトの両立が難しいけど、友人関係や関わりが充実する
	進路の決め方	・所属学部での学びから進路を決めていく。 ・授業で学んだことから興味ある分野に進む ・合説での出会い ・看護を学ぶ上で、自分が看護師になれるか、あうか、なやむ人が多い。
② 大学生生活で苦しかったこと		・レポート課題が多い
③ 大学生生活でうれしかったこと		・友達が増える ・試験や課題の達成感
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）		・語彙力 ・積極性 ・計画性



本グループは、教員のファシリテイトが徹し、付箋紙への書き込みは行わなかった。教員が問い掛けをしてこれに学生が応え、これがヒントになり学生が付箋紙に書き込むというサイクルで各小テーマのディスカッションが進行した。教員も学生も話をしながら和気あいあいとしていた。最初的小テーマ「①高校と大学のギャップについて」での議論での意見が比較的多く出たようであった。最後のポスター作製では教員が立ち上がり、模造紙へ付箋紙を貼り付けるサポートを行った。名護高等学校①のグループと交互に報告をおこなった。

学外からの教員であったためか、例えば、ハイブリッド授業やオンライン授業における不満など、学生たちは教員に素直に語っていた。また、表 1 には記載はないが、教員からの実験や研究に関する問い掛けに対して、学生が応えている場面もあった。さらに、どの小テーマであったか、学生から論文を読んで暗記して勉強しているとの発言があり、これが印象に残った。

本勉強会は、各グループの議論を観察するだけでも多くの気づきを得ることができた。そのため、本取り組みは本学教員に対する F D 研修にもなるのではないかと考えた。

2022 年 11 月 22 日(月)に第 8 回名桜大学高大接続勉強会が開催された。今回は「大学生と考える高校と大学のギャップ」を大テーマに、北部地区の県立高校 7 校出身の学生 26 名、高等学校教員 12 名、大学教職員 15 名の合計 53 名が参加し、高校別グループでの情報交換（ディスカッション）を行った。本報告書は、名護商工高等学校のグループについて報告する。

名護商工高等学校から教員が出席できなかったため、急遽、本学の教員で旧名護商業高等学校出身の島康貴准教授に出席して貰った。教員 1 人、学生 3 人（男子 1 人、女子 2 人）の計 4 人で情報交換を行った。本勉強会は、高等学校毎のグループに分かれたディスカッションではあったが、総合司会がタイムキーパー役を務め小テーマごとに時間を区切って進行した。ディスカッションは各自が付箋紙に意見を記述し、付箋紙に貼り付けてポスターを作成し発表する形式で行われた。以下の表に、本グループで作成したポスターの内容をまとめる。

表 1. 名護商工高等学校で作成したポスター内容のまとめ

① 高校と大学のギャップについて	学習の目標や計画の立て方	・自由に決められる ・計画性が求められる	
	授業の受け方（履修登録，準備学習，学期末試験，レポート・論文）	・課題や予習が多い ・コマが長い	
② 大学生活で苦しかったこと		・時間管理 ・バイトと学業の両立 ・課題が多い。レポートなど。 ・バイトと学業の両立 ・行動をおこす人，おこさない人で差ができる	
③ 大学生活でうれしかったこと		・自由度がある ・友人同士の助け合い ・学習センターで自由に勉強 ・他県との交流	
④ 大学で学び成長するためには何が必要か（母校の後輩たちへのメッセージも）		・課題をこなすくせをつける ・報連相が大事 ・興味がある分野を持つ ・当期繰越 ・機会を自分で見つけて意欲も持って行動する！	

本グループは、「次のテーマに進んでもよいですか」との質問が出るほど、各小テーマでの議論が比較的円滑に進んだ。ディスカッション中に笑い声もよく起こった。このため、極めて積極的かつ円滑なディスカッションが行われたと考える。最初の小テーマ「①高校と大学のギャップについて」では、意見が少なかったように思えたが、「探究・研究」と「進路の決め方」以外は他の小テーマでディスカッションが行われたようであった。最終的なまとめでは 4 つの小テーマを 4 人がそれぞれ担当し学生主導でポスターを作成し、北部農林高等学校のグループと交互に報告をおこなった。

今回本グループに参加した教員は本学に所属する教員でピンチヒッターとしての参加であったが、これはさらに進んだ高大連携の形を示した事例になるかもしれないと感じた。